

世界的な景気の回復が進んでいる。雇用・株価・企業収益など、い
る。先日参加したある国際会議で
も、参加の各国のエコノミストか
ら、雇用・株価・企業収益など、い
ずれもの指標で見ても、景気は好調
ず、物価や賃金は十分に上昇してい

日本の 未来を 考 える

学習院大教授 伊藤元重



であるという意見が相次いだ。
当面、世界的な経済にとって厳し
い動きが予想されるといっような悲
観的な見方はまったくなかった。
日本も基本的には同様な状況であ

る。雇用・株価・企業収益など、い
ずれも近年でもっともよい数字が出
ている。
景気が好転しているにもかかわらず
、賃金や賃金は十分に上昇してい

景気拡大の先の落とし穴

うな状況である。雇用の調整が進ま
ないこと、産業構造の大きな変化が
起きていることなど、先進国共通の
現象が背後にはありそうだ。
賃金や成長率が十分に上昇してい
かないので、国民にも企業にも、景

はなきぞうだ。
さて、国民に景気拡大の高揚感が
あるかどうかは別として、景気が拡
大基調になれば、その先にはどのよ
うな落とし穴が待っているだろう。
常に先に潜むリスクの話をするの

気の高揚感はない。当面は景気が好
転したとしても、将来には不安が残
る。そういった悲観的な見方が、企
業にも消費者にも残っている。だが
ら投資の伸びも期待ほどではない。
日本だけがそうした状況にあるので

う債券、株、不動産などの資産価格
への影響である。
景気拡大が続けば、長期金利が上
昇していく。長期金利上昇は債券価
格の下落を意味する。株価や不動産
価格も下落するかもしれない。

であるにすぎないのかもしれない。
今の状況がバブルかどうかの判定
は難しい。もし適正な価格であるな
ら、金利上昇で株価や不動産価格は
下落するとしても、それは暴落とい
うことにはならないだろう。

また、皮肉なことではあるが、主
要国の物価や賃金の上昇のスピード
が遅いということが、金利上昇のペ
ースを遅くするという面もある。
物価や賃金がなかなか上がらない
ことに日本は苦しんでいるが、そう
した面での景気拡大への重しの方
なものが、結果的には資産価格の安
定要因となっているとも言える。

*この記事・写真は産経新聞社の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。

(いとう もとしげ)